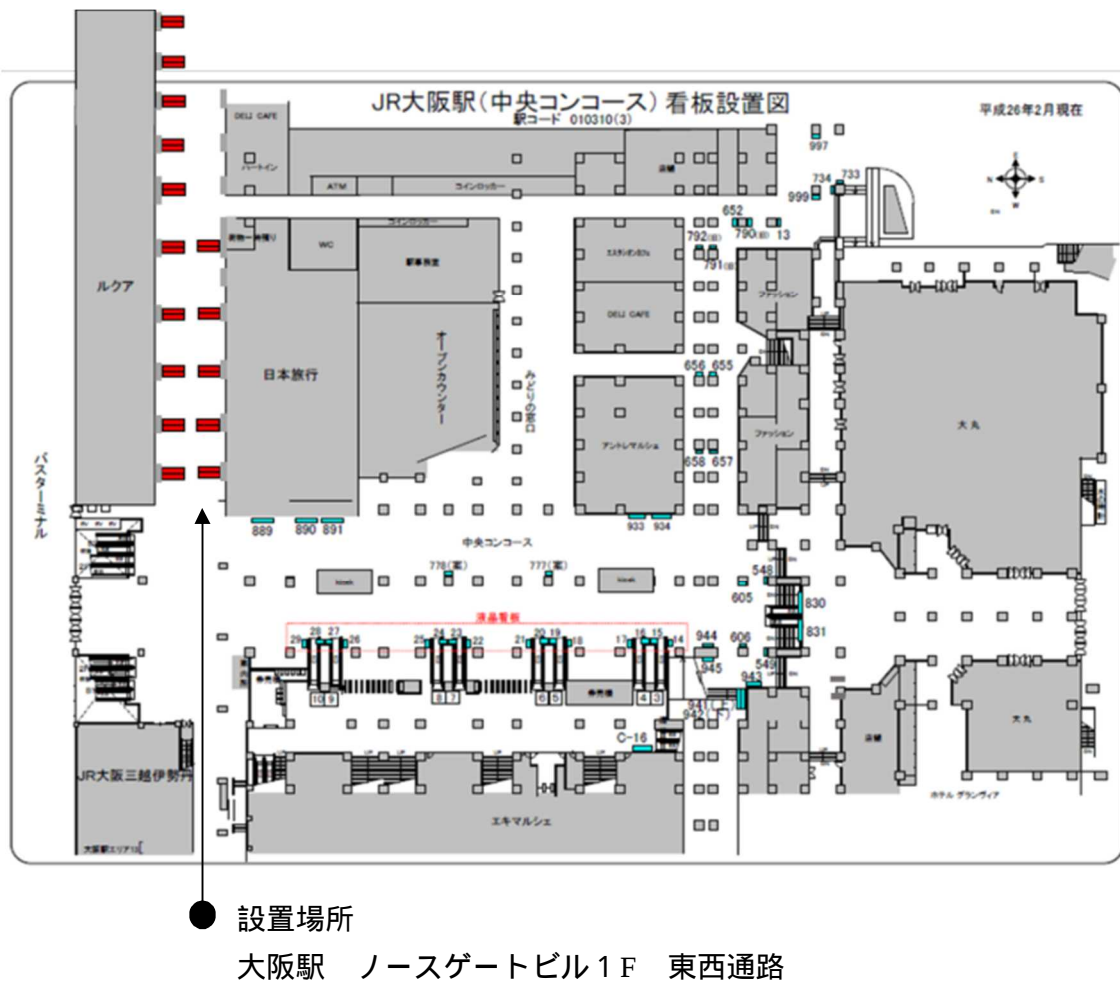


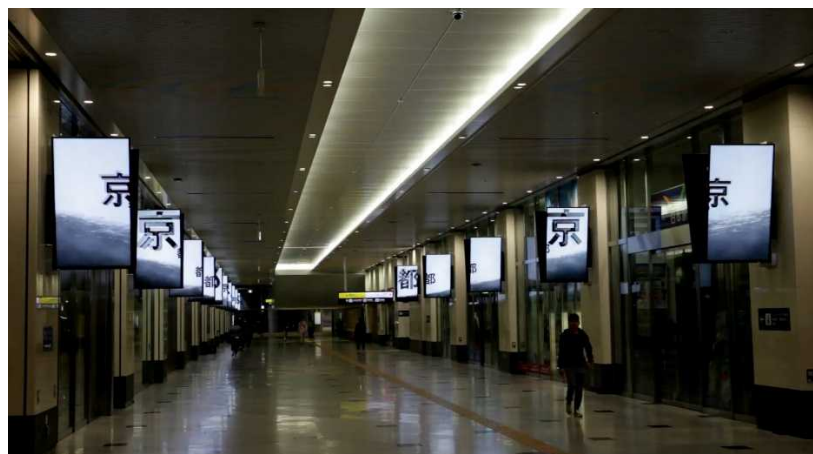
設置場所



時空連動型コンテンツ 「京都鉄道博物館」篇 30秒

画面ごとに個別の制御が可能で大画面ディスプレイ30面を連続的に配置しているので、複数画面を連動させた立体的な空間演出ができ、より多くの人々に強く訴求できます。

片側画面5面を連動させて、文字（京都鉄道博物館）がこちらに迫ってくるように演出。



画面 10 面を連動させた墨絵で描かれた京都の町並みの中を、SL 義経号が走り抜けます。



最後は、すべての画面で京都鉄道博物館の館内と京都感を押し出したイラストを組み合わせた華やかなビジュアルで京都鉄道博物館のグランドオープン強く印象づけます。

